

柔らかなハイライト
暗部の確かな色再現
HDR 4K マスターモニターとして納得できた
BVM-HX310



レスパスビジョン株式会社 様は、BS における 4K 放送開始をはじめとする、さまざまな用途での 4K HDR 制作需要の高まりに備えるため、ポストプロダクション部門において新たに HDR 対応 31 型 4K 液晶マスターモニター BVM-HX310 を導入され、2019 年 2 月より運用を開始されました。同社 技術部 部長 長島正弘 様にお話を伺いました。



長島正弘 様

BS の 4K 放送開始を受けた HDR 対応

当社では 20 室ほどの編集室を抱えていますが、今回 BVM-HX310 を設置した E4 編集室の“Baselight”や“Mistika”などのシステムは、すでに HDR 制作に対応する充実した機能を備えています。4K モニターはすでに導入していますが、HDR 化についても検討を重ねていました。しかし、今までの各社の LCD の HDR 対応 4K モニターは、ハイライトの輝度を出すために、それにつられて黒も浮く傾向が見受けられ、私たちのマスターモニターに対する要求を満たしているとは言い難いものがありました。しかし、そうこうしている間に、2018 年 12 月から BS での 4K 放送がスタートし、当社でも 4K HDR 制作に本格的に取り組む必要に迫られることになりました。

バランスの取れたハイパフォーマンスモニター

HDR 対応 4K マスターモニターの導入を迫られる中、ちょうど営業さんから「一度見て見ませんか？」と、ご紹介いただいたのが、LCD パネルを採用した新製品の BVM-HX310 でした。BVM-HX310 は画面一面の高輝度 1000cd/㎡表示も可能です。一方で、LCD パネルであることにより不利になるであろう、黒の締まりやコントラスト比は、ソニー独自の技術で見事にカバーされ、今までの LCD とは一線を画し、限りなく有機 EL に迫っており、とても高いバランスの取れたモニターだと感じました。

今でも基準となっている“CRT”に近い再現を実現

特に、私たちが重視しているのは、スペックだけでなく、スペックに現れない実際の見え方です。言葉で表現するのは難しいのですが、デモ機を拝見させていただいたところ、BVM-HX310 は、HDR のハイライト部分の階調表現が豊かで、「硬さ」や「目の痛さ」がなく、とても自然な見え方がしました。HDR の映像表現には、この自然光に近い柔らかな表現が必要と考えています。また、私たちが今でも基準にしている「CRT マスモニでの見え方」に近いと感じられるカラーバランス、ガンマカーブ等、大変良い印象を受けました。

高いこだわりを満たしてくれる BVM-HX310

当社は編集室内の照明に限らず、廊下など共用部の照明の色温度もできる限り CIE 標準光源「D65」に統一するなど、色に対してかなり高いこだわりを持って取り組んでいます。編集室のマスターモニターとしては、今まで、ソニーの BVM-E250 など使ってきました。HDR 対応 4K モニターとしては、BVM-X300 を含めて各社の製品を検討しました。それらを通じて感じていたのは、例えば、暗部のカラーバランスや、わずかなユニフォミティーのずれなど、詳細に確認しないと見逃すような部分への、マスターモニターに対するさらなる高い期待でした。今回紹介を受けた BVM-HX310 は、BVM-X300 よりも暗部の立ち上がりやスペクトラムのバランスなど細部にも大幅に磨きがかかった印象を受け、私たちの高い期待とこだわりを満たしてくれると感じました。そこで早速 1 台を 4K の HDR 制作用に導入することにしました。



LCD で新製品を投入した意義を実感

BVM-HX310 は、マスターモニターを有機 EL パネル中心にラインアップしていたソニーが、敢えて LCD パネルで投入してきた意義を感じさせる製品です。まさに、納得できる HDR 対応の 4K モニターだと感じています。LCD パネルを使用していることにより、フリッカーがなく、暗い編集室で長時間作業をしてもオペレーターの目が疲れません。現在の HDR 対応の 4K マスターモニターとして、ポストプロダクションにおける最良の選択肢だと思えます。

当面は案件ごとに各部屋に移動しながら利用

今回導入をした BVM-HX310 は、一旦 Baselight カラーグレーディングルームに設置をしました。しかし、お客様や作品によって HDR 編集を行いたい編集室は異なりますので、当面は案件ごとに、必要となる部屋に BVM-HX310 を移動しながら運用を行う予定です。今後は HDR 制作需要の高まりに合わせて、順次 BVM-HX310 を増備していきたいと考えています。

今後は広色域の高いカバーにも期待

BVM-HX310 は、高い頻度で扱っている劇場向け広色域規格の DCI-P3 については、すでにほぼ包含できています。一方 BS 4K 放送における色域としては、広色域の ITU-R BT.2020 が定められています。しかし、現行 HD 放送との同時制作などの観点から、当面は HD 放送用の ITU-R BT.709 カラースペースで制作したコンテンツを、納品段階で BT.2020 にマッピングする形が続くと考えられます。しかし、将来的には BT.2020 での制作需要は高まってきます。ソニーのカメラですでに BT.2020 を完全に包含する S-Gamut3 の色域での撮影が可能です。しかし、各社業務用・民生用に関わらず、BT.2020 の色域をほぼ全てをカバーできるモニターはありません。現在でもソニーの BVM シリーズはトップクラスの BT.2020 カバー率ですが、これまでの他の色域と同じく「BVM なら BT.2020 全ての色が見えているから大丈夫」というような、BT.2020 をフルカバーしてくれるような製品の投入にも引き続き期待を寄せています。

経年変化も少なく信頼がおけるソニーのマスターモニター

ソニーのモニターは CRT 時代から使ってきました。ソニーのマスターモニターの印象は、経年劣化や経年変化が少なく使いやすいことでした。長年、信頼をおいてソニーのモニターを使ってきました。BVM-X300 以降では、扱う色域のパリエーション増加や EOTF/OETF などの増加に伴って、メニュー構成なども変わりましたが、今後、そういったメニュー構成や操作なども、便利に簡単に安心してシンプルに使えるよう、これからもソニーには一層の改善を期待しています。

取材日：2019 年 4 月上旬

レスパスビジョン株式会社 <http://www.lespace.co.jp>

「無いものは創る」の精神を掲げ、1987 年に独自開発のマルチカメラオフライン編集システムを核にポストプロダクションを創業。オフライン編集サービスの拡充を経て、1997 年にはオンライン編集室も開設。さらに 2001 年には 5.1ch サラウンド MA 室を設け、総合ポストプロダクションに。近年は DI サービスや撮影サービス、制作プロダクション業務にも事業を拡大。「無いものは創る」の DNA を引き継ぎ、ポストプロダクション周辺分野にむけたオリジナルアプリケーション・ユーティリティソフトウェアの開発・販売なども手掛ける。2017 年には創業 30 周年を迎え、総合ポストプロダクションとして、ミュージックビデオからテレビコマーシャル、映画・ドラマなど幅広い分野において活躍中。

放送・業務用モニターの商品情報やお客さま事例をご覧ください。

sony.jp/pro-monitor/

ソニービジネスソリューション株式会社 / 〒108-0075 東京都港区港南 1-7-1

購入に関するお問い合わせは

業務用購入相談窓口 **フリーダイヤル ☎ 0120-580-730**

●受付時間 9:00 ~ 18:00 (土・日・祝日、および弊社休業日は除く)

2019 年 6 月現在